

Monthly Report

Vol.76 / 2012 Aug.

本学OB監督率いる2校が夏の甲子園に出場 ～第94回全国高校野球選手権大会～



高校球児の夢の舞台である「第94回全国高校野球選手権大会（通称：夏の甲子園）」に本学OBの斎藤智也氏（17回生）が監督を務める聖光学院高校（福島）と宮良高雅氏（23回生）が監督を務める浦添商業高校（沖縄）が出場しました。聖光学院高は2回戦の浦和学院高（埼玉）に敗退したものの、1回戦では前年大会を制した日大三校（西東京）に勝利するなど、夏の甲子園6年連続出場の実績そのままに好プレーで甲子園を沸かせてくれました。

浦添商業高は1回戦で優勝候補の一角であった愛工大名電高（愛知）に勝利すると2回戦の滝川第二高（兵庫）にも勝利しました。3回戦では奪三振数で一躍注目を浴びた松井裕樹投手を要する桐光学園高（神奈川）に屈したものの、強豪校が多い沖縄大会をノーシードから勝ち上がった実力を如何なく発揮しました。

本学OBの監督は、今年の夏の甲子園でも斎藤智也監督（聖光学院高校）と間橋康生監督（古川工業高校）が出場するなど49校という限られた者しか踏み入ることのできない甲子園の舞台でも活躍されています。OBの活躍がスポーツ界を盛り上げていることは、大学関係者としてもたいへん誇らしいことです。

目次

本学OB監督甲子園に出場	1
オープンキャンパス2012 海外短期留学	2
宮城ヘルシー2012 事務職員研修会	3
海外留学レポート ～北欧デンマークから～	4
レクリエーション部 体操競技部インカレ結果	6
漕艇部インカレ結果 新体操インカレ結果	7
硬式野球部OB監督交流会 母校で再起を狙う	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし
たら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

オープンキャンパス2012を実施



8月4日（土）に「オープンキャンパス2012」を実施し、936名（生徒712名、同伴者224名）の方々に来場いただきました。本学のオープンキャンパスは高校生に大学生活を体験・紹介することで、受験の判断や入学後のミスマッチ防止、パンフレットではわからない体育大学が持つ独特の雰囲気を体感してもらうことなどを目的に開催しています。学科毎の体験イベントや個別相談コーナー、本学学生が目指す職業として多い「保健体育教諭」と「スポーツを支える仕事」の講座・進路紹介などを行いました。

また、オープニングセレモニーでは本学OBである常盤木学園高校サッカー部の阿部由晴監督、聖光学院高校野球部の斎藤智也監督、ベガルタ仙台の奥埜博亮選手からのビデオメッセージを上映し、未来の後輩たちに向けて仙台大学の魅力などについて話していただきました。

[イベント内容]

- ・オープニングセレモニー
- ・ミニ講座「保健体育の先生の仕事」
- ・進路紹介「スポーツ選手を支える仕事」
- ・入試説明会／保護者対象ガイダンス
- ・キャンパスツアー
- ・仙台大学の小論文対策講座
- ・仙台大学の競技スポーツに関する展示会
- ・全身反応時間・動体視力の測定体験
- ・真夏に真冬の体験
- ・アスレティックトレーニング体験
- ・ボブスレー・スケルトン体験
- ・軽スポーツ・ニュースポーツコーナー
- ・手浴とハンドケア
- ・骨密度測定で健康UP
- ・インボディ測定
- ・エクセル栄養君体験コーナー
- ・運動栄養学科展示コーナー
- ・運動栄養サポート研究会コーナー
- ・調理実習体験コーナー
- ・教員と在在学生による個別相談コーナー
- ・ニュース番組制作体験
- ・スポーツに役立つ 情報活用プチセミナー
- ・スポーツ情報の最前線
- ・スポーツ現場での情報収集活動体験
- ・誰でもできる護身術

第9回カヤニ応用科学大学短期留学



8月29日－9月29日の日程で「第9回カヤニ応用科学大学(フィンランド)短期留学プログラム」に参加する学生3名が8月21日(火)に国際交流センター長の鎌田教授、事業戦略室の福原職員と共に

朴澤学長の元を訪れ、出発前の挨拶と留学に向けての抱負などを語りました。今回、留学するのは井上悟志さん(スポ情マス3年／山形県長井いのうえさとし高校)、大沼さつきさん(体育2年／山形商業高おおぬま校)、佐藤詩織さん(健福2年／宮城県築館高さとうしおり校)です。3名は、留学に向けての抱負として「語学力向上を図りたい」と話し、また、フロアボール部に所属する大沼さんと佐藤さんは「フロアボールは北欧で盛んな競技なので、少しでも学びとってきたい」とも話していました。3人は、フィンランド人をはじめ多くの国の留学生たちと共に、英語で開講されているクラスで学びます。

宮城ヘルシー2012ふるさとスポーツ祭



県民にスポーツ・レクリエーション活動を通して地域スポーツの振興に寄与することを目的として宮城県などが主催している「宮城ヘルシー2012ふるさとスポーツ祭」の大河原教育事務所管内大会が8月26日（日）に開催されました。大会は大河原教育事務所管内（2市7町）の持ち回りで開催されていますが、今年の担当であった柴田町では、震災の影響で町体育館が使用できないことから本学へ施設の使用依頼がありました。そのため本学第5体育館を会場に総合開会式と家庭バレーボールが開催されました。開会式では丸山副学長が朴澤学長の代理で挨拶し、「皆さんの日頃の練習の成果を十分発揮して頑張ってください」と祝辞を述べました。

習の成果を十分発揮して頑張ってください」と祝辞を述べました。

本学ではこのイベントと合わせてレクリエーション部の「ニュースポーツ体験コーナー」、トレーナー部の「疲労回復のためのストレッチ・マッサージ体験コーナー」、地域健康づくり支援センターの「健康づくり運動教室」、菊地臨時職員とサッカー部学生による「わくわく大学探検」を開催し、日頃、大学との接点がない方に対して仙台大学の取り組みを知っていただくための企画のスポーツに接する機会を提供しました。また、女子バレーボール部は家庭バレーボールの運営補助として大会を支えました。



写真提供：菊地臨時職員

平成24年度学校法人朴沢学園「事務職員研修会」



8月10日（金）江陽グランドホテル（仙台市内）において平成24年度学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局13名、明成高校14名、仙台大学79名の、総勢106名の理事・職員が参加しました。

研修会では朴澤学長が訓育として、今年6月に文部科学省から公表された「大学改革実行プラン」の資料を使い、大学の質保障の徹底推進と確立の必要性について話されました。

次に、学生課の川村昭宏課長が、大学・高校で対応が問題視されている「クレーム対応」について、学校リスクマネジメント推進機構が主催した「保護者クレーム対応 実践技術 速習研修会」の報告と合わせて対応の方策についてご自身の考えを交えながら話されました。

その後、部外講話として河北新報社論説副委員長の原谷 守氏にご登壇いただき、「新聞の読み方 表と裏から」と題してご講演頂きました。ここでは東日本大震災の翌日も新聞を配達した河北新報社員の努力や苦労と、新聞社が震災を通して喜怒哀楽の感情を伝えるという本来の姿を取り戻した話や、大学へのアドバイスとして、不祥事が起きた際の初動の大切さと記者会見での注意事項、報道機関へのリリース発信時期などについて講話いただきました。

海外留学レポートー北歐デンマークからー(報告:高橋まゆみ准教授)

白夜の北歐デンマークは、日増しに涼しい季節へと移り始めています。デンマークは、日本から飛行機で約11時間、ほぼ北海道の面積と同じくらいの広さの国土に約550万人が住んでいる国であり、「福祉先進国」や「世界一幸福な国」として日本でも知られている国です。今回は、デンマークの福祉について学びたいという意味で、2012年4月から1年間の予定で留学をしている三浦多輝美さん(健康福祉学科)の学習や生活の様子についてレポートします。



8月30日4日目のクラスの風景 最後部座席が三浦さん

◇リレベルト大学インターナショナルコースがはじまる

三浦多輝美さんは、最初の4ヶ月間、今年5月に本学と国際交流協定を結んだノアフュンス国民大学の日本語による社会福祉コースに所属し、デンマークの社会福祉の制度について学びました。8月27日からは、リレベルト大学社会教育学部インターナショナルコースで生活指導教諭について学んでいます。「生活指導教諭」とは、デンマークでは「ペダゴギー」と呼ばれている資格であり、幼稚園教育、学童保育、障害者の生活指導などを行うための指導者の資格です。小学・中学校の教員は教育学部で学びますが、生活指導教諭は社会教育学部で学びます。三浦さんの所属するインターナショナルコースは、秋季 Semester (8月～12月)のコースであり約4ヶ月間、英語による講義、演習、施設実習(幼稚園、障害者・高齢者福祉施設)を通して、生活指導教諭資格に必要な知識や技術を学びます。

クラスの人数は46名。学生の出身国はデンマーク、アイルランド、フィンランド、ドイツ、スペイン、リトアニア、スロバキア、チェコ、ハンガ

リー、ガーナ、ケニア、トルコ、日本。日本人は、三浦さんの他にノアフュンス国民大学と一緒に学んだ琉球大学からの女子留学生と2名。このクラスの学生の年齢幅は、20～36歳(女性が3分の2以上を占める)。このコースの特徴は、様々な国籍と母国語を持つ人たちの集まりであることと同時に、年齢の幅があることです。これは、デンマークでは生活指導教諭の資格を得て仕事に就くためには、様々な生活経験や社会経験などを重視するという事にあります。

学習形態は、4～5人から成るグループワークが中心です。4ヶ月間を2ヶ月ずつ前半と後半にグループ編成がなされます。三浦さんは、さっそく5人からなるグループに割り振られました。

(ガーナ、トルコ、チェコ、ハンガリー、日本人)。それぞれの母国語をもった学生が共通の英語でコミュニケーションをとりながら、オリエンテーションで与えられた3つの課題についてレポート作成とパワーポイントによる発表をします。三浦さんたちは、次週までに準備しなければならないと、慣れない英語を駆使しながら取り組んでいました。特に、インターナショナルコースでは各国の文化の違いを学ぶことが重視されるために、最初の課題はOur Countryについて英語で発表することになります。ただし、すべて一人で行うのではなく、グループでインターネットや図書館の資料を基に調べ、話し合い、教員との対話に答えるので、心配することなく協力しながら学習することができます。その結果、協力の気持ちが多いグループは、その分評価の高いものとなります。ここでは、どのように対話をし、いかに他人と調和を取りながら自分を表現するかが評価されるために、よい雰囲気作りの資質や技能がとても重要になります。

◇平坦な道路でサイクリング通学

次に、学生の生活面について、三浦さんのアパートを訪問した際にその生活環境について話を聞いてきましたので少しお話をしましょう。

①住居と生活について

住居は、リレベルト大学が不動産会社を通して学生寮としているアパートで、同大学の女子学生(日本人2名、チェコ人、スロバキア人)と4人での共同生活です。場所は、大学のあるオーデンセ市(人口19万)の中心駅よりバスで約30分のところにあり、大学まではバスをオーデン



学生寮(アパート)内の部屋の様子

セ駅で乗り継いで40-50分程度。三浦さんたちは、大学から自転車をレンタルすることができたので、その地区に住む同じ大学の学生たちと自転車通学をはじめました。デンマークは平坦な道が多く、今の季節はとも気持ちのよいサイクリングコースになります。

現在、住んでいるアパート(学生寮)は移民・難民の住むコミュニティ内にあります。アパート内は2階建てで広く作られており、広めのエントランス、1階にキッチン、ダイニング・リビングルーム、ランドリールーム、2階にバスstub付きトイレットルーム、一人6畳ほどの個室が4部屋、学生4人で住むには快適な空間。食事は自炊で、食料の調達には一苦労している様子です。コミュニティ内のスーパーは彼女たちにとって慣れていないアラブ・イスラム系の人経営しており、食材も不慣れなものばかりで雰囲気も彼女たちにとって少々不安とのことでした。そのため、アパートから少し離れたショッピング街に食料買出しをしているとのことでした。

②学生へのサポート体制

現在は、デンマーク人でリレベルト大学の外国人世話係の学生1名が、さまざまな手続きについてサポートをしています。8月中旬、申請していた学生ビザがやっと取得できたとのことで、お世話係の学生と市民登録センターに行き、オーデンセ市個人登録ナンバー(CPRコード)取得の手続きをしてきたそうです。これが完了すればオーデンセ市民となり、パーソナルドクター(同コミュニティ内にいて、個人の医療に関するあらゆることを診てくれる医者)とパーソナルソーシャルワーカー(同コミュニティ内にいる個人の生活のあらゆる困りごとの相談に乗ってくれる社会福祉士)が付いて、さまざまな問題があったときにサポートしてもらえることとなります。また、市の図書館利用や銀行の口座開設ができるようになり、医療費も無料になります。

三浦さんのアパートを訪問して、デンマーク国内とはいえデンマークとは異質の雰囲気の地区で少々驚きました。しかし、彼女との会話からの印象は、以前に比べてかなりタフに鍛えられた姿でした。慣れない海外生活で予想外の事態へ対処しながら、実生活を通して福祉システムを学んでいるようにも思えました。また、三浦さんは「ここでは言葉の壁があるので、英語とデンマーク語を必死に勉強しないといけないことを実感している」と話しながら、机の前壁に張られた英語とデンマーク語の単語用紙を見せてくれました。「他の日本人学生と一緒に学ぶので心強い」とも話していました。現在はオリエンテーションが中心なので、英語の歌を歌い、ダンスやゲームをしながらコミュニケーションをとる時間が多いようです。しかし、今後は実習も控えているので、大学の授業が本格的に始まるまでにできるだけ多くの語学学習をしたいと話していました。三浦さんにとって、海外での学習や生活面、そして語学の面で本当によい経験をしていると感じました。



学生寮(アパート)の外観

レクリエーション部がミヤギテレビ主催の「沖縄遊・YOU塾」を支援



塾生をつなぐ役割も果たしました。この他、懇親会やキャンプファイヤーではゲーム・ソング・ダンスといった様々なレクリエーション活動の提供も行い、塾生同士の交流や仲間作りにも尽力しました。

教育授業の一環として「沖縄遊・YOU塾（主催：ミヤギテレビ）」が7月24～28日に開催され、小学校3年生から中学2年生までの180名の塾生が参加しました。本学レクリエーション部は2002年からシニアリーダーの大役を任されており、今年くさかしおりは日下汐莉さん（健福4年／白石女子高卒まつしたけい）、松下慧さん（健福3年／柴田農林高卒むらかみとも）、村上朋さん（健福3年／明成高卒まつだまみ）、松田真実さん（健福3年／尚綱学院高）の4名が随行しました。4人の主な役割は45名ずつに分けられた班に教員と共に一人ずつ付き、起床から就寝まで「班から離れている塾生はいないか」、「体調を崩していないか」などに目を配りながら行動することでした。さらに、年齢が近いお兄さん・お姉さんとして教員と



村上朋さん（健康福祉学科3年）



今回の沖縄遊・you塾には、レクリエーション部の中でも豊富な経験を持ち、安心して対応を任せられるメンバーで臨みました。180人という大所帯のため、行動する度に誰かがいなくなる・落とし物が出るなどのトラブルが発生し、シニアリーダーは常にフルに動き回っていました。

今回、シニアリーダーとして参加させていただき、団体行動が苦手な子どもへの対応や、大人数・年齢幅が広範囲の集団へのレクリエーションの提供など、日頃の活動では経験できないことが多く、たいへん勉強になりました。卒業後は社会福祉士として地域の全ての年齢を対象に相談に応じ、助言や指導、福祉サービスを提供したいと考えており、今回の体験は就職後も活かせるものとなりました。

体操競技部インカレ結果



※写真提供：佐藤幸子新助手

8月22～24日に仙台市体育館を会場に第66回全日本学生体操競技選手権大会（インカレ）が行われ、本学体操競技部は男子団体で3位、男子個人総合でも杉本健太郎さん（体育学科2年）が9位に入りました。なお、今大会の個人1日目は平成24

年度U-21の代表選考会にもなっており、1～3学年の上位12名の中に入った古谷嘉章さん（体育学科1年）と小原孝之さん（体育学科2年）の2人が強化指定選手の条件をクリアしました。今後、海外大会へも派遣される予定です。

なお、昨年のインカレで2部リーグから1部リーグに昇格した女子団体は、善戦及ばず最下位の10位となり、2部降格が決定しました。これから1年間、しっかり実力をつけて、1部復帰が待たれます。

男子団体：第3位
 男子個人：第9位 杉本健太郎さん
 男子種目別：跳馬 第2位 山本収一
 鉄棒 第2位 尾崎亮介
 女子団体：第10位（2部降格）

漕艇部インカレ結果



第39回全日本大学ボート選手権大会（インカレ）が8月22－26日に戸田漕艇場で開催され、本学漕艇部は男子舵手つきフォアで3年ぶり2度目の優勝を勝ち取りました。

決勝・順位決定戦が行われた8月26日には、恒例となった柴田町ボート協会による「インカレ決勝応援バスツアー」が生まれ、40名を超える会員の皆様の温かい声援に後押しされて、選手たちは全身全霊をオールに込めて頂点を目指しました。

今大会では日本大学が他大学を圧倒し、男子8種目中7種目を制する中で、唯一本学が男子舵手



※写真提供：(左)石森職員、(右)菊地事業戦略担当課長

つきフォアを制して日本大学の全種目優勝を阻みました。約3週間後の9月中旬にはボート日本一を決める全日本選手権大会が控えており、選手たちの更なる活躍が期待されます。

<大会結果>

男子舵手つきフォア	優勝
男子舵手なしフォア	第4位
男子エイト	第5位
男子シングルスカル	第6位
女子クオドルプル	第4位

新体操インカレ結果



写真提供：番匠室長

新体操競技部が8月16－18日に愛知県豊田市のスカイホール豊田で行われた「第64回全日本学生新体操選手権大会（インカレ）」に出場しました。今年的女子団体総合は「ボール」、「リボン&フープ」の2演技で競われ、本学は「ボール」5位、「リボン&フープ」

4位で総合成績5位となり、11月に開催される全日本選手権の切符を手に入れました。8月20日には部長の大山教授、監督の河野新助手と部員が朴澤学長に結果の報告を行いました。



既に新体操競技部は全日本選手権に向けて、遠征から戻った翌日から新しい演技の練習に取り組んでいます。

女子団体総合	5位
ボール5	5位
リボン3&フープ2	4位

女子個人 桑原玲美さん（体育1年）40位
男子個人 佐藤史弥さん（体育3年）28位

仙台大学硬式野球部OB監督交流大会



8月9、10日に仙台大学硬式野球部OB監督交流大会が実施され、宮城県内で本学OBが監督・部長を務める10校の高校球児の熱戦が繰り広げられました。会場は仙台大学野球場、柴田球場、角田球場、柴田高校グラウンドの4会場を使用し、1チーム4試合ずつ行われました。

遠方から参加した5校の生徒137名はF棟3階に宿泊し、先生方12名は浴室棟に宿泊しました。大会では硬式野球部の40名が審判としてサポートに回るなどして大会運営を支えました。

9日には陣屋（柴田町内）を会場にして同窓生監督の懇親会が行われ、硬式野球部OBの半澤担当課長も出席し、交流を深めました。

高校名	OB
鹿島台商業高校	佐藤 政信先生
東陵高校	千葉 亮輔先生
大崎中央高校	加藤 武彦先生
伊具高校	原田 一貴先生
志津川高校	松井 康弘先生
古川学園高校	福岡 梓先生
角田高校	宇和野 修先生
古川黎明高校	中鉢 修先生
柴田高校	平塚 誠先生
米谷工業高校	二瓶 智樹先生



写真提供：半澤事業戦略担当課長

OB細川淳矢選手、母校で再起を狙う



本学OBでサッカー選手の細川淳矢選手（平成18年度卒）が7月から、本学の施設（トレーニングセンター、アスレチックトレーニングルーム、サッカー場）を使って練習を行っています。細川選手は在学中の平成18年にJFA・Jリーグ特別指定選手としてベガルタ仙台の一員となり、平成19年に正式入団。ベガルタ仙台では持ち前のフィジカルの強さを発揮し、サイドバック・センターバックとして活躍しました。しかし、2011年シーズンを持って契約満了により同チームを退団しています。その後、移籍先を探すための合同トライアウト（12月開催）に参加しましたが、トライアウト中に右膝の前十字靭帯を損傷し、所属先を見つけることができませんでした。その後、1月に香港サッカーリーグ強豪の傑志（キッチー）への入団交渉を進めていましたが、練習初日に右膝の半月板を損傷し、メディカルチェックで手術が必要との判断から契約に至りませんでした。

2月の右膝手術を経て、現在ではほぼ回復しているようで、これからも日本に限らず海外チームとの契約も視野に入れて所属先を探していくそう

です。細川選手に新天地でのチャレンジを促したベガルタ仙台の手倉森監督も『Country Road 2011-2012』（ベガルタ仙台・市民後援会著）の中で、「細川はJ1昇格を狙うチームで堂々とやれる」と、その能力を認めており、1日でも早く所属先を決め、ピッチを躍動する姿をみせてもらいたいです。

皆さまも細川選手の応援をよろしくお願ひします。

細川淳矢選手コメント

仙台大学には7月からリハビリを兼ねてアスレチックトレーニングルームやトレーニングセンター、サッカー場などの施設を利用させていただき大変感謝しています。必ず所属先を見つけ、再び皆さんに応援してもらえるように頑張ります。

細川淳矢選手の経歴

出身地：埼玉県鴻巣市

出身校：鴻巣市立吹上中学校

武南高等学校

仙台大学 平成15年4月 - 19年3月

・平成18年 全日本大学選抜

・平成18年 JFA・Jリーグ特別指定

プロ経歴：平成19-23年 ベガルタ仙台

仙台大学同窓会東海支部総会



8月18日(土)に仙台大学同窓会東海支部総会が名古屋市内（ローズコートホテル）で行われ、支部長の松下邦雄氏(1期生)をはじめとする同窓生11名が集結しました。本学からも朴澤学長、半澤担当課長(4期生)が参加し、情報交換するなどして交流を深めました。

写真提供：半澤事業戦略担当課長